

平成 23 年度「キッズ ISO14000 プログラム事業」

協力企業・団体の募集について

1 趣旨

北海道では、地球温暖化をはじめとする環境問題の解決に向けた取組の一つとして、平成 18 年度から、道内企業の皆様の御支援をいただきながら、子どもたちが家庭における省エネルギー等の取組を通じて環境マネジメントの手法を学ぶ環境教育プログラム「Kids'ISO14000 プログラム」を、NPO 法人国際芸術技術協力機構（以下「ArTech」）と共同で、道内の小・中学校において実施しています。

この事業については、家庭・学校・企業・NPO・行政が連携しながら子どもたちの環境教育に取り組む好モデルとして、各方面から支持・賛同をいただき、これまでに全道各地の小・中学校で約 6,000 人の子どもたちがプログラムに取り組み、環境意識の向上に高い効果を上げております。

つきましては、平成 23 年度の事業実施に向け、企業・団体の皆様に、事業の実施に必要な経費の御支援をお願いしたく、協力企業等を募集します。

2 Kids' ISO14000 プログラムとは

ArTech が開発し、文部科学省、環境省、経済産業省、外務省、国連大学（UNU）、国際環境計画（UNEP）等の後援を受け、日本国内及び世界各国で実施され、国際的に高い評価を得ている子ども向け環境教育プログラムで、国際標準化機構（ISO）から「ISO」の名称等使用を特別に許可されています。また、国連が決議し推進している UN-DESD（持続可能な開発のための教育の 10 年計画）の一つとして国連教育科学文化機関（UNESCO）が推薦しています。

プログラムの内容は、子どもたちが家族と一緒に家庭の省エネルギー等に取り組むもので、「環境マネジメントとはどのようなことか」ということを、実体験を通して学ぶことができます。

これまで全国で実施されてきたデータから、①プログラムに取り組んだ約 8 割の子どもの環境に対する意識が変わり、②子どもの影響により保護者の意識が変わり、③その結果、家庭からの CO₂ 排出量が減少します。

子どもたちが作成したワークブックを専門のインストラクターが評価し、評価書を一人ひとりに返却することで、環境意識の向上を図るのが特長です。

詳しくは ArTech のホームページをご覧ください。

◆ArTech ホームページ <http://www.artech.or.jp/japanese/kids/index.html>

3 事業概要

①道が、事業に御協力いただける企業・団体を募集し、趣旨に賛同した企業・団体（以下「協力企業等」）が、ArTech に事業費を提供します。

②道が、プログラムを実施する小学校及び中学校（以下「実施校」）を募集します。

★募集対象 道内の公立小学校（1,241 校）及び中学校（657 校）
 ★実施目標 児童・生徒合わせて 1,800 人（小学5年生～中学2年生）

③協力企業等から事業費の提供を受けた ArTech は、道を通じ、ワークブックを実施校に送付します。

④実施校は、子どもたちにワークブックを配布します。

⑤子どもたちが、それぞれの家庭で、家族と協力しながら省エネルギー等の取組を実践します。

⑥子どもたちが完成させたワークブックは、ArTech のインストラクターが評価し、子ども一人ひとりのマネジメント能力評価表とデータ分析表を添えて、実施校に返却します。

⑦道は、事業の総合的なコーディネートを担当するほか、事業について、ホームページで公表するなど道民への周知を行います。

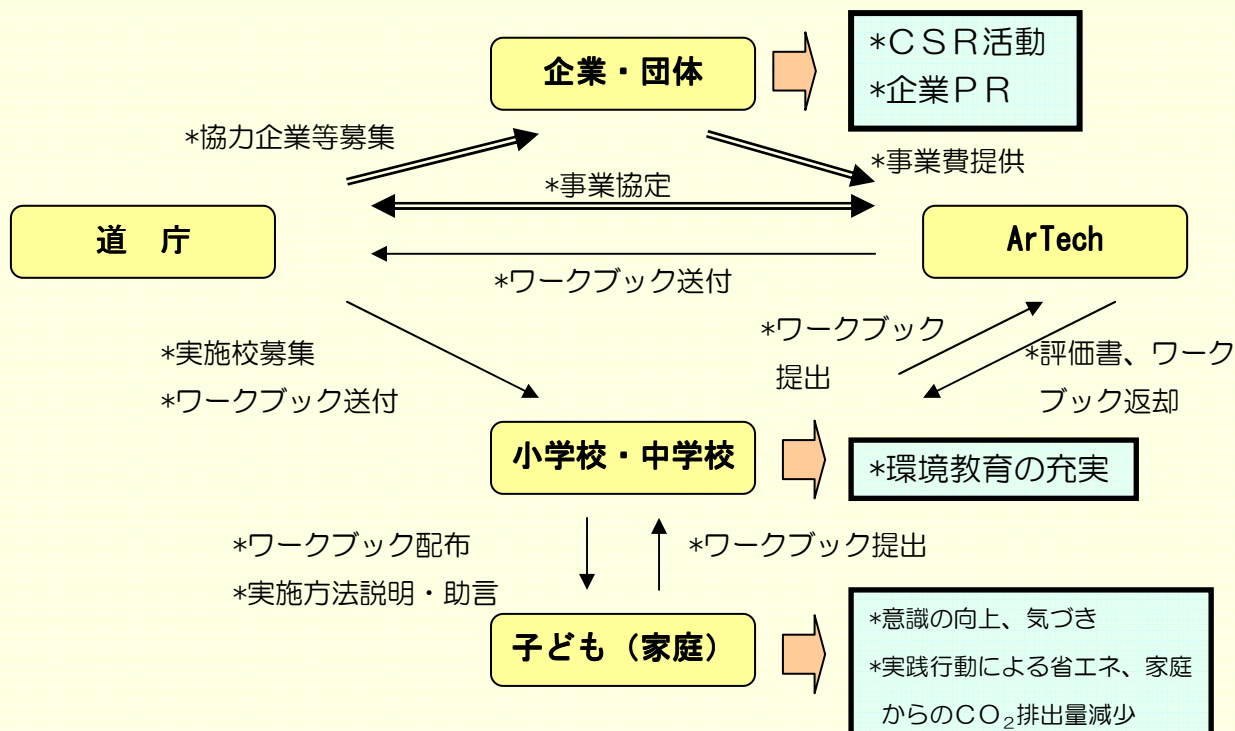
◆道のホームページ

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/ksk/kyouiku/KidsISO.htm>

◆平成22年度の実施状況

10市町 16校 児童・生徒 884人

***** 事業スキーム *****



4 募集内容

「平成23年度キッズISO14000プログラム事業」に対し、事業費の御支援をいただける企業・団体を募集します。

一口 30,000円 ※何口でも結構です。

(一口=児童・生徒1人あたりの経費 1,500円×20人分)

御支援を
いただいた
場合

◇道は、協力企業等をホームページで公表するほか、事業を実施する市町村や実施校に周知します。

◇道は、児童・生徒（家庭）に配布する全てのワークブックに、協力企業等名を記載したメッセージを添付します。

◇協力企業等は、本事業へ支援していることを表明できるほか、自社の温暖化対策やCSR活動の一環として、企業（環境）報告書等への掲載やホームページ等で公表することができます。*

※：「Kids' ISO14000プログラム」の名称やロゴ等は、ArTechの知的財産のため、使用にあたっては、事前に下記道庁担当課へ御相談ください。

5 留意事項

★事業費の提供方法（送金方法）については、御協力の申し込みを受けた後に、別途御案内します。

★本事業において御提供いただく事業費は、「寄付金」扱いとはなりません。

6 その他

ArTechでは、「Kids'ISO14000プログラム」を国際的に展開するための協賛企業を募集しています。詳しくは、ArTechへお問い合わせください。

〒151-0063 東京都渋谷区富ヶ谷2丁目14-13

国際芸術技術協力機構（ArTech）

電話：03-6407-8270 FAX：03-3481-8288 E-mail：Kids-ISO14000@artech.or.jp

7 お問い合わせ、申し込み

★この募集に関するお問い合わせは、下記担当までお願いします。

★協力の申し込みについては、別紙「協力申込書」を下記担当課に送付願います。

〒060-8588 札幌市中央区北3条西6丁目

北海道環境生活部環境局環境推進課 環境行動推進グループ（担当：林）

電話：011-231-4111（内線24-225） FAX：011-232-4970

E-mail：kansei.kankyoushou@pref.hokkaido.lg.jp

参 考

平成22年度協力企業等 **20社・団体** 協力金総額 **183万円**

イオン北海道(株)、(株)櫻井千田、(株)札幌ドーム、サッポロビール(株)北海道本社、新日本製鐵(株)室蘭製鐵所、(株)ズコーシャ、セイコーエプソン(株)千歳事業所、大同舗道(株)、苫小牧清掃企業組合、日本たばこ産業(株)北海道支店、(有)原田工務店、東日本電信電話(株)北海道支店、北海道ガス(株)、北海道環境整備事業協同組合、(社)北海道環境保全協会、(社)北海道産業廃棄物協会、(社)北海道浄化槽協会、(株)マテック、よつ葉乳業(株)、リコージャパン(株)北海道営業本部 ※50音順 敬称略

これまでの取り組み状況 **平成18～22年度合計 32市町村 62校 児童・生徒6,018人**

| 管内 | 市町村 | 学 校 名 | *太字はH22実施校 |
|-----|------|--|------------|
| 空知 | 夕張市 | 緑小学校 | |
| | 岩見沢市 | 栗沢小学校 | |
| | 美唄市 | 西美唄小学校 | |
| 石狩 | 札幌市 | 札苗緑小学校、新発寒小学校、二十四軒小学校、前田北小学校、東橋小学校、上野幌小学校、西岡南小学校、有明小学校、青葉中学校、澄川中学校、福井野小学校宮の森中学校 | |
| | 千歳市 | 泉沢小学校 | |
| | 北広島市 | 西部小学校、 大曲小学校、高台小学校 | |
| | 石狩市 | 南線小学校、緑苑台小学校、若葉小学校、花川南小学校、聚富小学校、紅南小学校 | |
| 後志 | 黒松内町 | 黒松内中学校、白井川中学校 | |
| | 倶知安町 | 西小学校 | |
| 胆振 | 苫小牧市 | 美園小学校 | |
| | 登別市 | 北海道登別明日中等教育学校 | |
| | 伊達市 | 長和小学校 | |
| | 壮瞥町 | 久保内小学校、壮瞥中学校 | |
| | 白老町 | 萩野中学校 | |
| 日高 | えりも町 | えりも小学校 | |
| 渡島 | 函館市 | 深堀中学校 | |
| | 松前町 | 大島小学校 | |
| | 知内町 | 知内小学校、湯ノ里小学校、涌元小学校 | |
| 檜山 | 上ノ国町 | 河北小学校 | |
| | せたな町 | 瀬棚小学校 | |
| 上川 | 富良野市 | 扇山小学校 | |
| 留萌 | 初山別村 | 初山別小学校 | |
| 宗谷 | 稚内市 | 稚内西小中学校 | |
| | 礼文町 | 香深井小学校 | |
| | 枝幸町 | 乙忠部小学校、枝幸南中学校 | |
| 浜-ツ | 網走市 | 潮見小学校、呼人小学校 | |
| | 滝上町 | 濁川小学校、滝上小学校、滝西小学校、白鳥小学校 | |
| 十勝 | 帯広市 | 北栄小学校 | |
| 釧路 | 浜中町 | 琵琶瀬小学校 | |
| 根室 | 別海町 | 野付小学校、別海中央小学校 | |
| | 中標津町 | 計根別小学校、中標津東小学校 | |
| | 標津町 | 川北小学校、薫別中学校 | |

H21年度アンケート結果

「このプログラムを通じて、環境に対する考え方や行動などが変わったと思う」と回答したこども達のコメントの一部をご紹介します。

- ・地球について考えることが多くなった(小5女子)
- ・ちゃんと気をつければ使用量がへるから、これからも続けたい(小6男子)
- ・節電チョーがんばってる!!(中1女子)
- ・データとして返ってきたことで、自分が省エネすることで地球に役立っていると、考えるようになった(中1男子)